

豆餅五万個をまく

“福”を追う参詣者二万人

黒住教宗忠神社

黒住教（黒住宗晴教主）は、黒住宗忠教祖神をまつる岡山市上中野一ノ三ノ一〇の宗忠神社（黒住忠篤宮司）で三日、節分祭を行なった。天候にも恵まれて約二万人が参拝し、終日賑わった。

節分祭に先だって、午後一時半から社殿で祭典を執行。同一時になると境内武道館前の特設舞台に、宗晴教主、宗道教嗣、忠篤宮司、七福神に扮した県内の政財界からの年男年女など、約六十人が舞台に登壇した。

宗晴教主が挨拶で「いつも節分では、鬼にも福が授かるように、『鬼は内』とかけ声をかけている。しかしこの度の大震災をめぐる窮状という鬼には、一日も早く去ってもらわなければならない。お隣の兵庫で被害を受けた方々へ、多くの岡山市民、岡山県民の皆さんから援助がなされている。黒住教でも一月二十三日から、現地で炊き出しを続けている。これからも支援をお願いします」と協力を呼びかけた。

続いて豆（福豆入り餅）まきが始まり、境内を埋めた参詣者が先を争って餅を追いかけた。豆まきは六回にわたって行なわれ、登壇した年男年女は計三百五十人。五万個の豆餅と福券入りボール千八百個がまかれた。

豆まきの後、抽選会があり、十万円の旅行券やオープンレンジ、ワイドテレビなどの当選者が発表された。

この日は午前九時から午後三時まで古札を火にくべて感謝する火炉祭や、合格祈願祭も行なわれた。また午前十一時半から特設舞台で備中神楽の奉納があった。なお兵庫県南部地震のため恒例の日本舞踊の奉納は控えた。

炊き出しボランティアの募集も

また境内に義援金の募金箱を設置。参詣者には、現地での炊き出しボランティアを募るチラシを配って、協力を呼びかけた。

天候に恵まれて約2万人の人出で賑わった【写真は省略】